

庄原と小泉八雲・セツとの関わり

- ① 松江に赴任（M23年8月30日着・9月3日出校）後、2週間後（M23年9.13）に**蒸汽船で初めて庄原着**。俥（人力車）で杵築大社本殿へ参拝。杵築では、稲佐の養神館に宿泊。

- ② 当時、運航していた蒸汽船は、「松江浦丸」がある。

*明治22年9月15日「山陰新聞」の広告：今般、汽船を一隻購入、船名「松江浦丸」で航海開始。

10月1日より、松江・宍道・庄原間。

- ③ 明治20年代初めには、南、北岸コースが開設。

北岸コース：松江——秋鹿——小境——布崎——（船川）——平田

南岸コース：松江——宍道——船川〔船入川〕——庄原

- ④ 唯一残る「庄原船着き場に停泊する蒸汽船（第三松江浦丸）」

の写真がある。（*当時のその他の写真の提供は未だなし）

- ⑤ 斐川町史364頁に記載。明治26年1月刊行の山本信太郎編

「出雲案内」（出雲図書館蔵）には、著名な旅店（宿屋）、陸揚げ

業者、通運回漕問屋が表記され、航海汽船名（松江・宍道・庄原

間）第一玉津島丸、第三松江浦丸、第一蓬萊丸、第二蓬萊丸と記

載されている。

⑥ 莊原への蒸汽船乗降の回数：

第1回目：明治23年9月13日、ラフカディオ・ハーンと通

訳の真鍋晃が着後、杵築大社へ参拝。14日昇殿。

15日宝物殿、稻佐の浜。

(その後、俤で莊原、蒸汽船で松江に帰着と思われる)

第2回目：明治24年7月26日(ハーンが遅れて松江から人

力車で大社へ参拝。西田千太郎同行)

28日は、小泉セツが杵築養神館へ合流。(おそらく
蒸汽船利用と思われる)

8月10日、ハーン、セツ、西田千太郎が帰途につ

き、莊原「辰巳屋」で昼食後、午後四時の汽船で松江
に午後七時帰着。

第3回目：明治29年8月11日、小泉八雲・セツと家族、西田

千太郎が汽船で莊原着。杵築「いなばや旅館」宿泊。

翌12日、養神館に宿泊。

8月18日、半雨の中、莊原着したが暴風雨となり、

「辰巳屋」で宿泊。8月19日午前3時汽船に乗船し
て、出航。松江には午前5時に帰着。8月20日は、

松江港から宍道港を経て熊本への帰りの途に。

⑦ 当時の汽船発着場所（須田修司宅の倉庫）に、「小泉八雲・セツの展示コーナー」を開設中。

⑧ 「錦織竹香女史をしのんで」5，6頁に記載。

経歴：明治十九年十二月、島根縣尋常師範学校訓導に任ぜられる。同十二月、島根縣尋常師範学校舎監心得を命ぜられる。

明治二十九年二月・熊本県裁縫科教授法取調を委嘱される。

（＊ハーンは、明治24年11月～明治27年10月熊本発までは、熊本に在住。）

⑨ 「西田千太郎日記」（昭和51年6月発行）島根郷土資料刊行会
子息・西田敬三（福山市）の一任を得て、その編者としてまとめられてのが、莊原町在住されていた、故池橋達雄先生である。